

●この資料の取扱いについては、次のとおりお願いします。

ラジオ・テレビ・インターネット	
紙面	

お問い合わせ先
藤井寺市教育委員会事務局 教育部文化財保護課 電話 072-939-1111 (代) (内線 6813・6814) 直通 072-939-1419 担当 泉・福田

表 題	史跡古市古墳群唐櫃山古墳確認調査成果について
内 容	<p>史跡古市古墳群内では、唐櫃山古墳について、整備事業に伴い確認調査を実施し、下記の通り成果がありましたのでご発表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>唐櫃山古墳は、允恭天皇陵（市野山）古墳の南側に位置する、全長59mの帆立貝形前方後円墳で、5世紀後半に築造された。令和2年度より確認調査を継続して実施しており、令和2年度には允恭天皇陵（市野山）古墳内堤上面の敷石を、令和3・4年度には付属施設を確認した。</li> <li>今年度は、墳丘の西側と北側の2ヶ所で発掘調査をおこない、西側では後円部の葺石及び埴輪列とともに、前方部の埴輪列を、北側の調査では唐櫃山古墳の渡り土手と允恭天皇陵（市野山）古墳の堤を確認した。</li> <li>西側の調査では、後円部上段の葺石及びテラスに並ぶ埴輪列と前方部の埴輪列を確認した。埴輪列の存在から前方部の幅はおよそ14mと想定でき、従来の想定よりも大幅に広がる。前方部にも埴輪列が伴うことが判明するなど、唐櫃山古墳の築造当初の形を明確にすることができた。</li> <li>北側の調査では、付属施設が允恭天皇陵（市野山）古墳の堤に接続することから、渡り土手と考えられる。</li> <li>遺物は、円筒埴輪のほか、<sup>きぬがさ</sup>蓋形埴輪、須恵器が見つかった。須恵器は、前方部の上面から<sup>はそう</sup>甌、高坏、坏、器台、甕が見つかった。</li> <li>令和2年度の調査において、允恭天皇陵古墳の堤では堤上面で敷石を確認している。周辺の調査では確認されていないことから、渡り土手の延長線上、主墳と陪塚の間にのみ敷石が施されたものと考えられ、両古墳が密接な関係にあることが明らかとなった。</li> <li>9月18日（月・祝）10時～12時に現地説明会を実施する。駐車場なし、雨天中止。</li> </ul> <p>※詳細については添付資料をご覧ください。 また、写真データが必要な場合は、上記、問い合わせ先までご連絡ください。</p>

## 唐櫃山古墳の調査について

唐櫃山古墳は、允恭天皇陵（市野山）古墳の南側に隣接し築造された、全長 59m の帆立貝形前方後円墳である。5 世紀後半に築造された陪塚の一つとして数えられる。

### 1. 調査目的

唐櫃山古墳の整備を目的とした調査を令和 2 年度から実施している。令和 2 年度の調査では允恭天皇陵（市野山）古墳の堤上面の敷石や唐櫃山古墳の周濠、令和 3・4 年度では付属施設を確認した。今年度は墳丘の西側と北側の 2 ヶ所に調査区を設定した。西側の調査区はくびれ部を、北側の調査区は付属施設の性格を確認することを目的として調査を実施した。

### 2. 今年度の調査成果

墳丘西側の調査では、後円部上段の葺石、後円部テラスの埴輪列とともに、前方部の埴輪列を検出した。前方部の埴輪列は初めての検出となり、新たな知見となった。葺石は、3～4 段が確認できるほか、縦方向の石列を確認した。後円部テラスの埴輪列は、14～15 個体を確認した。埴輪列はやや円弧を描くことから、後円部に沿って埴輪列が設置されたことがわかる。調査区の南端では後円部の埴輪列に接続する 5 個体の埴輪を確認した。5 個体より西側は削平を受けており残存しない。また、前方部埴輪列の北側は当初くびれ部と想定していた部分であるが、築造当初は前方部の上面であったと考えられる。

遺物は、埴輪列の近辺から朝顔形埴輪や蓋形埴輪が出土したほか、前方部上面付近からは須恵器が出土した。須恵器の器種は、高坏、坏、甗、甕、器台などが確認できる。

北側の調査区では、令和 3・4 年度に確認した付属施設が允恭天皇陵（市野山）古墳の堤に接続する渡り土手であることを確認した。そのため、唐櫃山古墳の北側には埴輪列を伴う幅 13.5m の渡り土手が存在することが明らかとなった。

今回の調査によって、以下の 3 点が明らかになった。

- ①前方部に埴輪列が存在した
- ②埴輪列の存在から、前方部の幅は 14m 程度になるものと考えられる
- ③唐櫃山古墳北側には渡り土手が付属していた

令和 2 年度の調査では、今回確認した渡り土手の延長線上、允恭天皇陵（市野山）古墳の内堤上面には敷石が確認されており、主墳と陪塚の間が特別な空間を有していたことは明らかであり、両古墳の密接な関係性を強調するものとなった。また、前方部にも埴輪列が存在し、前方部の上面では須恵器が伴う儀礼が行われていたものと考えられることができる。

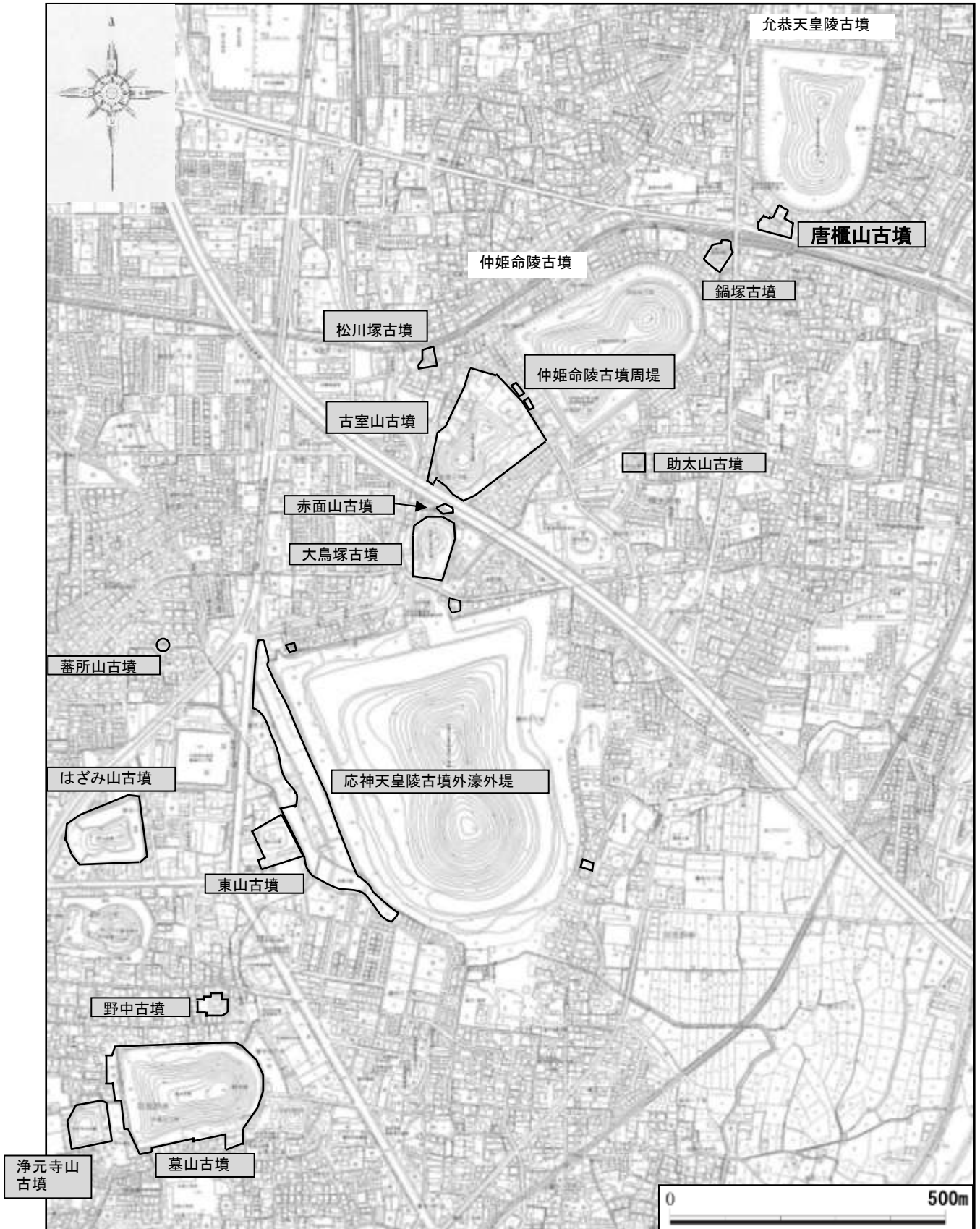
以上のように、今回の調査によって唐櫃山古墳には渡り土手が付属し、後円部だけではなく前方部にも埴輪列が伴うことや、その墳丘規格が明らかになるなど、築造当初の姿を復元する重要な成果を得ることができた。

### **3. 現地説明会**

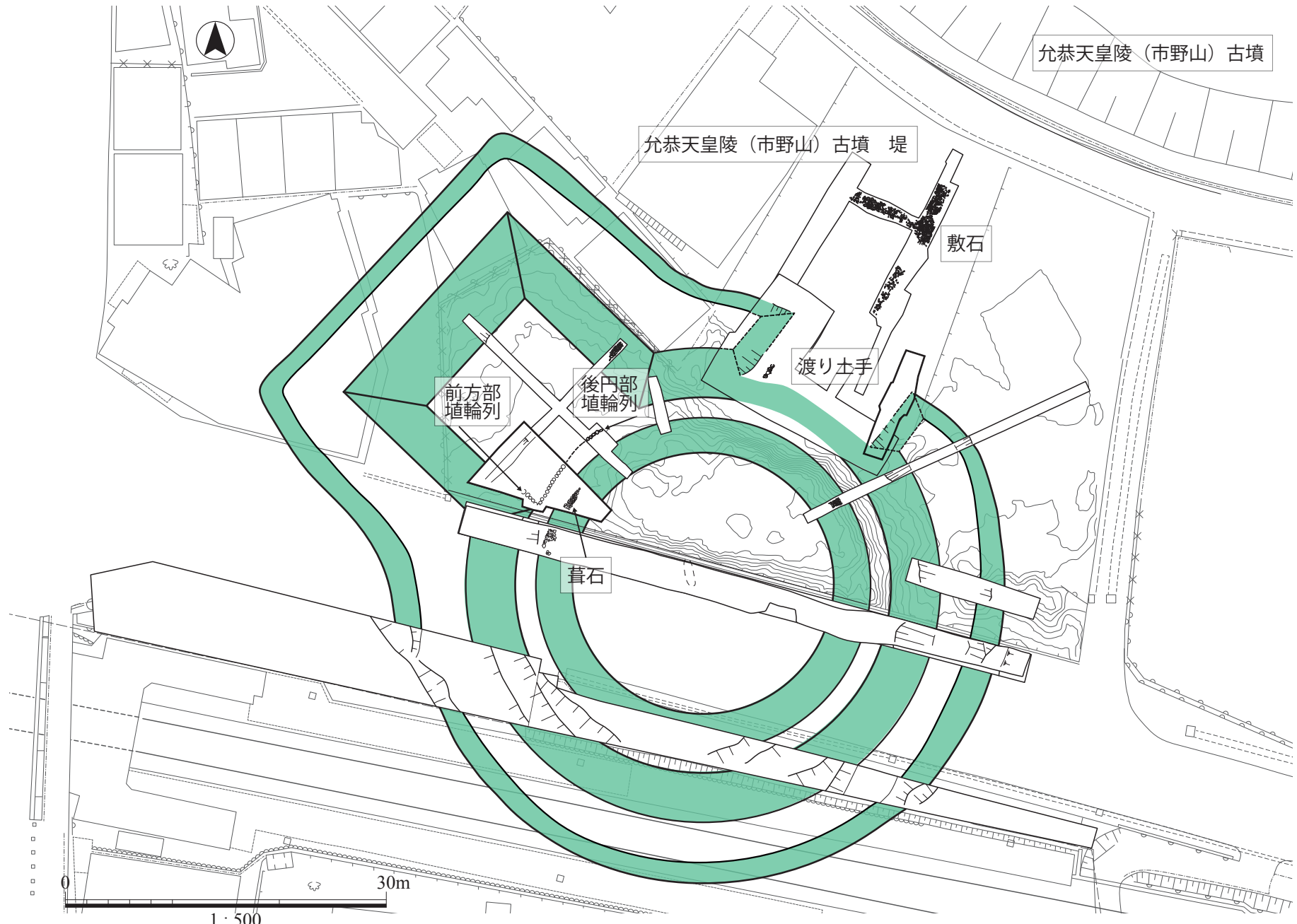
9月18日（月・祝）10時～12時に現地説明会を実施する。現地に駐車場はない。雨天中止。

最寄駅：近鉄南大阪線土師ノ里駅より北へ徒歩1分。

# 唐櫃山古墳と史跡古市古墳群分布図



既指定範囲



允恭天皇陵 (市野山) 古墳

允恭天皇陵 (市野山) 古墳 堤

敷石

渡り土手

前方部  
埴輪列

後円部  
埴輪列

墓石

1 : 500

30m





写真1 後円部上段の葺石及びテラスの埴輪列



写真2 後円部埴輪列



写真3 トレンチ上空より（写真左側が後円部）



写真4 墳丘北側の調査区全景（北西より）